

## 海域の概要

本湾は、三陸海岸に存在する湾で、湾内には大島があります。湾全体が気仙沼町に存在し、カツオ・サンマ・マグロ・サメなどの水揚げ港として有名です。



気仙沼湾

## Specification

### 諸元

湾口幅：2.6 km

面積：15.4 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：2.9 m

湾口最大水深：2.1 m

閉鎖度指標：2.08

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

宮城県本吉郡唐桑町上鮎立 278 番地西端と気仙沼市恵比寿鼻を結ぶ線、同市龍舞崎と同市岩井崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

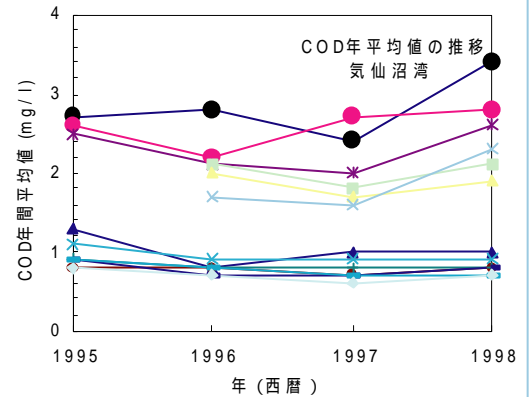


## 環境

細長く閉鎖的な本湾は、湾口付近では水質は良好ですが、商工業地があり、港湾や漁港等に利用される湾奥部では、水質悪化が進んでいます。COD 年平均値の推移は、各測定地点ともほぼ横ばいで推移していますが、蜂ヶ崎沖と大島北沖等では環境基準を超過する 2~3mg/l 程度の値となっています。

近年は、海的环境を守るため、カキ養殖業者が中心となり「森は海の恋人」のキャッチフレーズのもと、湾に注ぐ大川上流に植林する活動が行われています。

底質は湾口付近では砂質ですが、湾中央から湾奥にかけては泥質となっています。



## 自然

リアス式海岸特有の複雑な入り江や、豪壮な海崖、奇怪な岩礁など、その景観はすばらしく、昭和 39 年に陸中海岸国立公園に編入され、昭和 46 年には、一部が海中公園にも指定されています。

気仙沼南端の岩井崎では、石灰岩が長い年月をかけて海水によって浸食された結果できたダイナミックな噴潮の潮吹岩が見られます。この石灰岩はペルム紀化石産地として有名で、今から約 25 億年前のサンゴ・二枚貝・アンモナイト・ウミユリ・ボウスイ虫など貴重な化石がみられます。

また、湾内の気仙沼大島北西岸には、鳴き砂で有名な十八鳴浜があり、「日本の渚 100 選」に指定されています。

湾口付近にはガラモ場やアオサ・アオノリ等の藻場が見られます。



岩井崎の潮吹岩

## 文化歴史

気仙沼湾には、いろいろの伝説があります。気仙沼の由来は、古代日本の正史「三代実録」(859 年)に記されている計仙麻(ケセマ)からきています。ケセマとはアイヌ勢力の南のはずれの入り江と説くアイヌ語源説等があります。

湾内の神明崎の海上には近江八景の浮御堂を模した朱塗の浮見堂や平成 6 年 10 月にオープンしたリアス・アーク美術館等の文化施設が豊富です。

## 産業

気仙沼市は国際水産文化都市と命名するほど、水産業が盛んです。気仙沼は遠洋・沖合漁船の全国一の船籍港で、カツオ・サンマ・サメ・マグロの水揚げが全国トップクラスです。湾内ではホヤ・ウニ・アワビ・ノリの養殖を行い、特産品として水産加工されています。また、気仙沼漁港はフカヒレの水揚げ地としても有名です。

大島を 1 周する「大島外洋めぐり」、煙雲館や秀の山銅像等の名所を巡る観光産業にも力を入れています。湾内の東北地方最大級の島「気仙沼大島」には、キャンプ場やグラスボートなどの観光施設が整備され、「日本の水浴場 88 選」にも選ばれた小田の浜もあり、多くの観光客が訪れています。